

## 別枠事業費確保により国土強靱化推進へ

2018年11月5日(月) 第197回国会 参議院 予算委員会において、国土強靱化の推進、建設産業の再生などに関して安倍総理をはじめ関係大臣に質問しました。



**佐藤信秋**

— 国土強靱化を長期的、計画的に

国土の強靱化をやっいていこうとすると3年間では限度がある。長期的に計画的にやっいていかないといかねばならぬと思っいてまして、どこの国でも実は長期計画を持っいてるんですね、五か年計画、十か年計画。強靱化の場合にも、是非、どのぐらゐの年数で、これぐらゐの達成目標はやっいていくぞというようなことをお決めいただく方向が有り難いと思っいますが、総理、いかがでしよ。う。



**安倍内閣総理大臣**

国土強靱化を長期的そして計画的、着実に進めるべきという御指摘は、そのとおりだろ。うと思っいます。現在進めっいてるインフラの総点検の結果を始め、これまで培っいてきた経験や教訓を踏まえまして国土強靱化基本計画を年内に見直し、中長期的な目標や方針を明らかにすることとっいてます。

この新たな基本計画の下、緊急対策の実施に当たり、消費税対応に係る2019年度及び2020年度に講じる臨時特別の措置を活用することを始め、

必要な予算を確保した上で国土強靱化の取組を更に加速化、深化させていくことにより、強靱なふるさと、誰もが安心して暮らすことができるふるさとをつくり上げてまいりたいと思っいます。



**佐藤信秋**

— 強靱化緊急対策は既存予算に上積み

長い間、事業費が減っいてきた建設投資に食っ込んで強靱化をやるといことになりま。すと、ますます予算が足らなくなるといこと。と。ここに上積みをしてやっいていただくといこと。とが大事なこ。と。かと思っいますが、財務大臣、いかがでしよ。う。



## A 麻生財務大臣

社会的に見ても、国として見ましても、これは喫緊の課題であることはもうはっきりしておりますので、(中略) 総理からも言われておりますので、3年間の集中目標でやるということでございますので、我々としては、少なくとも2019年及び2020年度の予算において、消費税に係りますいわゆる臨時とか反動減とか、そういったものの対策を含めていろいろな特別措置をやらせていただくということになろうと思っておりますので、そういった枠組みを利用いたしまして適切に対応していきたいと思っております。年末にかけていろいろ検討させていただきます。



## Q 佐藤信秋 —公共投資の増額を

日本ぐらいインフラをこれだけ切り刻んできた国はない。ほかの国は大体2~3倍になっていますから、この20年間ぐらいで日本だけが半分になった。これでは差が開く。一方で、公共投資を削れば民間投資も減って、総額が減って、実はGDPの減少の半分ぐらいは建設投資ですよ。それで、増えるときも、半分ぐらいは建設投資。(中略) 一定の増額を必要とすると思うんですが、財務大臣、いかがでしょう。

## A 麻生財務大臣

国土強靱化基本計画の5年目の見直しを今、行わせていただいております、年内めどに改正案の取りまとめをやらせて頂こうと思っておりますが、基本計画の見直しにとりまして必要となつてまいります財政面という面が一番問題なところだと思いますけれども、これは、見直し後の基本計画の内容などをよく踏まえまして検討させていただければと思っております。

## Q 佐藤信秋 —新しい魅力ある新3Kの産業に

建設産業、輸送業、住宅、不動産は、災害が起きればすぐに出動しないといけない業種なんです。特に、建設産業の場合には最初に障害物除去等をしないと行けないものですから、そこに人がいなきゃいけない。

私は、新しい3Kの産業、魅力のある産業へということ、従来から主張しておりますが、石井大臣、いかがでしょう。

## A 石井国土交通大臣

建設業、住宅産業、自動車運送業、共に我が国の社会経済の根幹を支え、災害時には国民の安全、安心を守っていただいているということで、不可欠な産業と認識をしております。

例えば、建設業は、発災直後から道路啓開や堤防修理などの応急復旧に当たるとともに、瓦れき処理や基幹インフラの復旧復興などにも貢献をいただいております。また、住宅産業では、応急仮設住宅の迅速な建設や、被災者の自宅の再建などに貢献をいただいております。このほか、自動車運送事業においては、避難所への緊急支援物資の輸送などに貢献をいただいております。

国土交通省といたしましては、少子高齢化という社会構造の大きな変化の中におきましても、これらの産業が将来ともその役割を担い続けることができますよう、適切な賃金水準の確保、週休二日制、生産性向上など、働き方改革にしっかり取り組みまして、従来の3Kではなく新しい3K、すなわち、給与がいい、休暇が取れる、希望が持てる、こういった新3Kの魅力ある産業へと変えていきたいと、このように思っております。



## 佐藤のぶあきを後援する会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-4-2 九段ウイズビル2階  
TEL.03-3262-6635 FAX.03-3262-1900  
E-mail info@kokudo-saisei.net

討議資料